

*K*itami
*I*nstitute of
*T*echnology
Center for Regional Community

well

Connect ?

【巻頭言】

「新しい地域連携体制の構築」 —三大学統合を見据えて—



社会連携推進センター長
(工 学 部 教 授)
有田 敏彦

平成30年度社会連携推進センター年報の発刊に際して、一言ご挨拶を申し上げます。

社会連携推進センター（前 地域共同研究センター）は発足以来、本学が地（知）の拠点として在るために、北見市ひいてはオホーツク地域の産業等の多様なニーズに対応できる人材育成に繋がるよう活動を行って参りました。そうした中、小樽商科大学、帯広畜産大学、北見工業大学の三大学は、2022年4月に「北海道連合大学機構（仮称）」を創設し、同法人が三大学を運営する組織体制（一法人複数大学制）を構築することに合意し、各大学の強みを活かした相乗効果が生まれることで、新しい価値の創造を目指して準備を始めているところでございます。

「令和」という新しい時代において国立大学を取り巻く状況は大きく変化が求められることと思われませんが、今後も社会連携推進センターは開かれた大学の窓口として、地域の皆様のニーズと様々な研究内容を結びつけるお手伝いができることを願っております。

また、2018年7月に設置された第一次産業への工学支援によりオホーツク地域の持続的発展と変革を目指す「オホーツク農林水産工学連携研究推進センター（略称：CAFFÈ）」に続き、2019年5月には「地域と歩む防災研究センター（略称：SAFER）」が設置され、特に積雪寒冷地域における防災力向上に貢献すべく、研究成果を地域へ還元することを目指しております。どちらのセンターも“地域”というキーワードを重視し、教育・研究活動を行っておりますので、何かご相談がございましたら、ワンストップ体制で社会連携推進センターを窓口として対応出来る体制を整えておりますので是非お気軽にご連絡ください。

我々の情報発信不足もあり「社会連携推進センターひいては大学では何をやっているのかわからない」や「そもそも大学と連携して何か事業を行うのは一部の大企業だけではないか」といったご意見をいただくこともありますが、時代の転換期において、異なる分野の知識・技術を結び付けるとともに、そうした時流に対応できる優秀な技術者を育成することが、現在大学が地域社会や地域産業から求められている機能であると考えております。

ぜひとも地域の皆様には当センターのみならず、北見工業大学における教育・研究活動を知っていただき、活用いただきたいと切に願うとともに、今後とも皆様のご指導、ご支援を賜りますようよろしくお願いいたします。

社会連携推進センター一年報目次

【巻頭言】

「新しい地域連携体制の構築」—三大学統合を見据えて—

社会連携推進センター長 有田 敏彦

1. 平成 30 年度活動状況

1) 事業計画及び事業報告

平成 30 年度 事業計画 1

平成 30 年度 事業報告 2

2) 運営組織

スタッフ 5

客員教授 5

産学官連携推進員 6

産学官連携推進協力員 6

3) 共同研究等

共同研究・受託研究報告 8

共同研究件数の推移 9

共同研究受入一覧表 10

4) 産学官連携活動

交流イベント等出展状況 19

5) 知的財産活動実績

発明届出・国内特許出願・国内登録特許件数 26

6) 地域再生人材育成プログラムの推進

工学連携推進型地域 6 次産業人材育成事業 27

7) 各種会議報告 32

8) 活動日誌 35

2. 付録

・センター関連規程

・技術相談申込書

1. 平成 30 年度 活動状況

1) 事業計画及び事業報告

平成30年度事業計画

1. 共同研究等外部との連携事業

科学研究費助成事業等から発生した研究シーズの普及と地域ニーズの発掘を目的として、共同研究、受託研究、奨学寄付等による事業推進を図る。また、地域ニーズから研究シーズへと繋がる活動を特任教授、客員教授等の協力の下、推進する。

2. イノベーション創出に関する事業

本学研究シーズの活用から地域産業活性化に繋がる事を目的として、産学官連携事業により、新技術、知的財産等の創出を推進する。これらを実施するに当たっては、地域産学官連携により各省庁（農水省、国交省、経産省、総務省等）の施策に提案することも考慮した活動を推進する。

3. 教育事業（社会人、学生）

地域産業への貢献を目的とした社会人の育成や学生教育を推進するために、産学官関連事業等を活用し、人材育成事業、シンポジウム等を客員教授、関連機関との連携により推進する。また、他機関が開催するセミナー等においても、共催、後援を含め協力支援する。

4. 融合事業の推進

近隣大学、市町村、公設試、包括連携協定機関等との連携を強化し、研究シーズの普及、学生の地域定着等推進のため、地域一体となった活動へとつなげることを目的として、地域研究会、産学官連携推進員協力員、包括連携協定機関等との事業を推進する。

5. 産学連携事業に係る広報活動の推進

本学の研究、社会貢献等の特徴や地域特性を含めたPRを目的として、公的機関等が開催する各種会議・パネル展に積極的な出展を推進する。そのためにセンターの年報、パンフレットの発刊やホームページの充実を図る。これらのPR活動を通じて同窓会活動の活性化に寄与する。

6. 社会連携推進センター運営にかかる事業

社会連携推進センターの運営の効率的な事業・施設運営を目的として、センター運営会議、センターミーティングにより、情報の共有化を図る。また、北見工業大学社会連携推進センター推進協議会（北見市商工観光部主催）等のニーズに対応できる体制を構築する。また、全国的な情報を得るために、センター長等会議や専任教員会議（全国）を活用し、センター運営に役立てるものとする。

施設運営の上では、共用研究室として有効な体制を整え、インキュベーション機能、人材育成事業のフォローアップ等の支援体制を構築する。

7. その他関連する事業

1～6 以外の社会連携推進センターとして必要と思われる事業を推進する。

平成30年度事業報告

1. 共同研究等外部との連携事業

科学研究費助成事業等から発生した研究シーズの普及と地域ニーズの発掘を目的として、共同研究、受託研究、奨学寄附金等を通じた事業推進を図った。また、地域ニーズから研究シーズへと繋がる活動を特任教授、客員教授等の協力の下、推進した。

○共同研究118件(内訳:道外49件、道内28件、オホーツク圏41件)

○共同研究等の推進活動による、研究シーズの普及と地域ニーズの発掘、教育支援

・農工教育関係(3件)、地域振興関係(1件)、ノウハウの開示(1件)、教育支援3件、美山小学校(9/20,11/8)、札幌藻岩高校(10/29)、東相内小学校(2/23)

2. イノベーション創出に関する事業

本学研究シーズの活用から地域産業活性化に繋がる事を目的として、産学官連携事業により、新技術、知的財産等の創出を推進した。これらを実施するに当たっては、地域産学官連携により各省庁(農水省、国交省、経産省、総務省等)の施策に提案することも考慮した活動を推進した。

これらの実践のため、遊休公施設を活用した教育・研究拠点の形成に支援した。

○経産省「産学連携評価モデル・拠点モデル実証事業」自主調査継続中。

○経産省:「ものづくり・商業・サービス補助金」コーディネート

○経産省:「地域・まちなか商業活性化支援事業」提案含めコーディネート

○農水省:産業クラスター研究会イソップ・コリドール事業推進協議体提案コーディネート

○厚労省:雇用創造協議会「実践型地域雇用創造事業」の実施指導

○国交省(開発局):連携協定に基づく官学連携活動

○農水省:農観連携ビジネス創出推進協議会

○ノーステック財団:事業への協力

○旧北見競馬場の活用に係る調査と整備

川尻助教(擁壁の挙動)、川口准教授(のり面研究の拡張)、浪越准教授(タマネギの移植)、早川(博)教授(土壌水分の効率取得手法)、中村(大)准教授(河川堤防の実物大模型実験)、宮森准教授(橋げたの損傷付加実験)、岡崎准教授(メタンの直接改質技術)、オホーツク農林水産工学連携研究推進センター(模擬林道構築と性能評価)

○マッチング支援:オホーツクの農業環境改善、サロマ湖の環境改善、工農事業、見学会の受入等

○2022年4月、帯広畜産大学、小樽商科大学との3大学での経営統合に関連したオープンイノベーションセンター構想の企画

3. 教育事業(社会人、学生)

地域産業への貢献を目的とした社会人の育成や学生教育を推進するために、産学官関連事業等を活用し、人材育成事業、シンポジウム等を客員教授、関連機関との連携により推進した。また、他機関が開催するセミナー等においても、共催、後援を含め協力支援を行った。

○学生による地域貢献活動の推進(マネジメント工学コースを中心として)

・美山小学校、東相内小学校(教育委員会「土曜学校」事業)、市町村イベントにおける科学実験教室等(ぼんち祭り(北見市)、青少年のための科学の祭典(北見市)、驚き!おもしろ科学実験(陸別町)、おもしろ科学の祭典 in びほろ(美幌町))

○地域産業界との教育連携

・北海道中小企業家同友会「オホーツク☆未来塾」(11/15、11/26、12/10)

・青年会議所、高校生企画水フェス

○人材育成事業

- ・北見市「工学連携推進型地域6次産業人材育成事業」5名修了(社会人3、学生2)、「地域を彩る食物語」(パラボ開催)

○客員教授を依頼し、産学連携活動等にご協力をいただいた。

各務 茂夫(東京大学教授 産学協創本部イノベーション推進部長)

篁 悟(特許業務法人武和国際特許事務所 弁理士)

舩井 一仁(芝綜合法律事務所 アースタック税理士法人グループ取締役 弁護士)

吉田 芳春(吉田国際特許事務所 所長 弁理士)

三井 良一(室蘭工業大学客員教授 元JST特許主任調査員)

○セミナー等の開催

- ・公開講座(2件、学生が実施主体となるスマホ教室及びPC教室)

○セミナー等の開催協力

- ・文部科学省霞ヶ関こども見学デー 企画・準備・実行(8/1～2)
- ・花王との共催によるリサイクルワークショップ英語による講義(北見市共催 9/25)
- ・オホーツク・スマート農業セミナー2019(1/17)
- ・北見市技能普及実行委員会「地方だからできること、強みと食の力。この街にしかない食で人を呼ぶ」(3/10)開催協力
- ・北見市技能普及実行委員会「新たな原料原産地表示制度に関して」(3/25)
- ・北見医工連携研究会「医工連携フォーラム」(3/9)
- ・北見医師会「オホーツク医学大会」(3/9)

4. 融合事業の推進

近隣大学、市町村、公設試、包括連携協定機関等との連携を強化し、研究シーズの普及、学生の地域定着等推進のため、地域一体となった活動へとつなげることを目的として、地域研究会、産学官連携推進員協力員、包括連携協定機関等との事業を推進した。

○市町村訪問、オホーツク総合振興局内1回ずつ訪問

○オホーツク農大マルシェ(10/6～7)

○オホーツク地域エネルギー環境教育研究会とともに地域子供教育事業協力

○オホーツク産学官融合センター事務局会議にて公設試等と月1回開催、地域コアの併設

○産業クラスター研究会「麻プロジェクト」、「テレワークプロジェクト」、「イソッププロジェクト」、新設「マイクロフーズプロジェクト」へ協力

○学生定着へ振興局内企業への広報活動により3名の定着に協力

○北海道中小企業家同友会オホーツク支部との連携事業「オホーツク☆未来塾」を開催(11/15、11/26、12/10)

○北海道中小企業家同友会との連携事業

○産業界との連携強化に向けた定期的な情報交換の企画・実行(研究探索、教育活動、学生のインターンシップおよび就職活動支援)

5. 産学連携事業に係る広報活動の推進

本学の研究、社会貢献等の特徴や地域特性を含めたPRを目的として、公的機関等が開催する各種会議・パネル展に積極的な出展を推進した。そのためにセンターの年報、パンフレットの発刊やホームページの充実を図った。これらのPR活動を通じて同窓会活動の活性化に寄与した。

○産学官交流イベント等出展状況

○センター刊行物の発刊

- ・センター年報、センターパンフレット、センターニュースレター

- 各種新聞・雑誌等掲載(北海道新聞等)
- 同窓会活動との連携による共同研究等の広報活動

6. 社会連携推進センター運営にかかる事業

社会連携推進センターの運営の効率的な事業・施設運営を目的として、センター運営会議、センターミーティングにより、情報の共有化を図った。また、北見工業大学社会連携推進センター推進協議会(北見市商工観光部主催)等のニーズに対応できる体制を構築した。また、全国的な情報を得るために、センター長等会議や専任教員会議(全国)を活用し、センター運営に役立てるものとした。

施設運営の上では、共用研究室として有効な体制を整え、インキュベーション機能、人材育成事業のフォローアップ等の支援体制を構築した。

- 北見工業大学社会連携推進センター推進協議会(事務局:北見市商工観光部)(4/26)
- 北見工業大学産学官連携推進員・協力員合同会議の開催(10/30)
- 社会連携推進センター運営会議 月1回(学内)
- 社会連携推進センターミーティング 週1回(学内)
- 国立大学法人共同研究センター等教員会議(電気通信大学)(9/6～7)
- 国立大学法人共同研究センター長等会議(信州大学)(9/27～28)

7. その他関連する事業

1～6 以外の社会連携推進センターとして必要と思われる事業を推進した。

- 広報備品・消耗品充実
 - ・印刷物など地域還元への推進
- 地域産業界からの知財相談への対応
- 社会人大学院教育新システム広報

◆産学官連携推進員

独立行政法人中小企業基盤整備機構 北海道本部	北見オフィス所長	小 中 博 好
北見商工会議所	オホーツク産学官融合センター長	池 田 嘉 孝

◆産学官連携推進協力員

一般社団法人北見工業技術センター 運営協会	事業支援課長	進 藤 寛 弥
公益財団法人オホーツク地域振興機構 北海道立オホーツク圏地域食品加工技術センター	研究員	小 林 秀 彰
地方独立行政法人北海道立総合研究機構	北見農業試験場研究部長	江 部 成 彦
北 見 市	商工観光部工業振興課 産学官連携係長	川 西 康 裕
網 走 市	観光商工部商工労働課長	田 口 徹
紋 別 市	産業部商工労働課長	高 橋 秀 明
置 戸 町	産業振興課長	栗 生 貞 幸
訓 子 府 町	農林商工課長	遠 藤 琢 磨
佐 呂 間 町	農務課長	平 戸 光 宏
津 別 町	産業振興課商工観光グループ主幹	近 野 幸 彦
美 幌 町	経済部商工観光グループ 商工主幹	後 藤 秀 人
大 空 町	産業課長	藤 田 勉
遠 軽 町	経済部商工観光課長	菊 地 隆
斜 里 町	産業部商工観光課長	河 井 謙
小 清 水 町	産業課長	細 川 正 彦
湧 別 町	企画財政課長	佐 藤 敏 正
興 部 町	産業振興課長	推 名 徹
雄 武 町	産業振興課長	横 田 和 幸
滝 上 町	まちづくり推進課 まちづくり推進係主事	川原田 耕基
清 里 町	企画政策課まちづくりグループ 主任	長 屋 智 洋

西 興 部 村	産業建設課長	小 崎 稔 勝
北 洋 銀 行 北 見 中 央 支 店	北見中央支店推進統括部長	原 田 敬 士
北 海 道 銀 行	北見支店副支店長	工 藤 新 一
北 見 信 用 金 庫	地域金融支援部地域金融支援課長	松 田 剛 一
網 走 信 用 金 庫	地域振興支援部地域振興支援課長	小 林 寿 明
遠 軽 信 用 金 庫	経営戦略グループ営業推進部門 統括役	戸 島 隆 志
日 本 政 策 金 融 公 庫 北 見 支 店	国民生活事業融資課長	村 上 英 樹
日 本 政 策 金 融 公 庫 旭 川 支 店	中小企業事業融資課長	平 井 秀 和
帯 広 畜 産 大 学	地域連携推進センター 人材育成マネージャー	藤 倉 雄 司
東 京 農 業 大 学	生物産業学部 地域産業経営学科 准教授	菅 原 優
日 本 赤 十 字 北 海 道 看 護 大 学	看護薬理学領域 教授	根 本 昌 宏
北 海 道 開 発 局 網 走 開 発 建 設 部	地域振興対策室長	池 田 俊 次
北 海 道 新 聞 社 北 見 支 社	営業部次長職	村 田 孝 二
公 益 財 団 法 人 北 海 道 科 学 技 術 総 合 振 興 セ ン タ ー	研究開発支援部長	伊 藤 征 也
網 走 測 量 設 計 協 会	副会長	内 海 和 彦

◆産学官連携推進員・推進協力員合同会議オブザーバー

経 済 産 業 省 北 海 道 経 済 産 業 局	地域経済部産業技術課 産学官連携推進係長	山 本 英 明
オ ホ ー ツ ク 総 合 振 興 局	産業振興部商工労働観光課長	佐々木浩司
公益財団法人北海道中小企業総合支援 センター	オホーツク支部長	伊 藤 道 雄
北見工業大学生生活協同組合	専務理事	白 岩 研 治

※ 産学官連携推進員・推進協力員、合同会議のオブザーバーについて

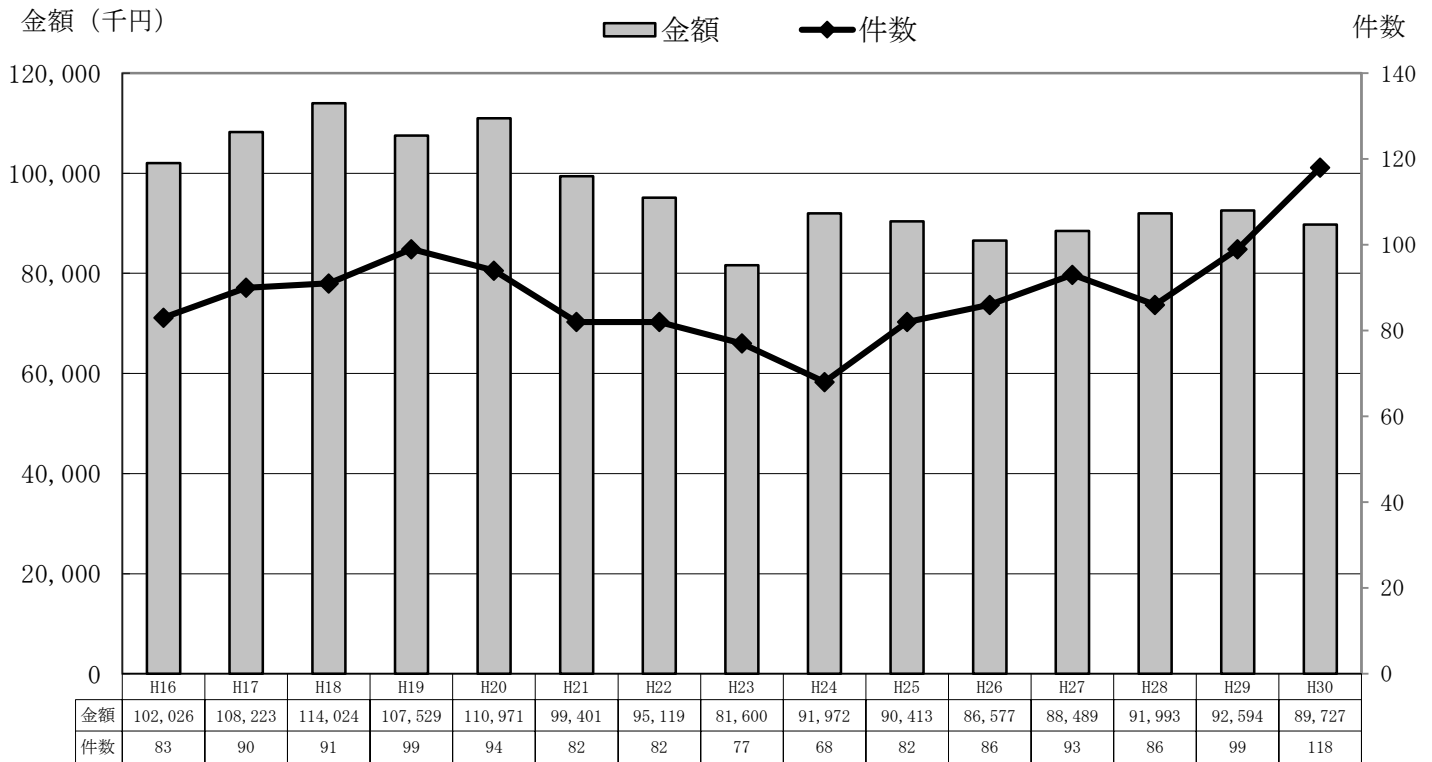
地域との関係をより緊密にするために、周辺自治体から推進員・推進協力員を派遣していただいています。推進員・推進協力員の役割は、各自治体および産業界におけるニーズを円滑に大学へ伝えることで、産学官連携を推進することです。

また、推進員・推進協力員合同会議には、北海道内の各行政機関等からオブザーバーとして参加協力をいただいております。

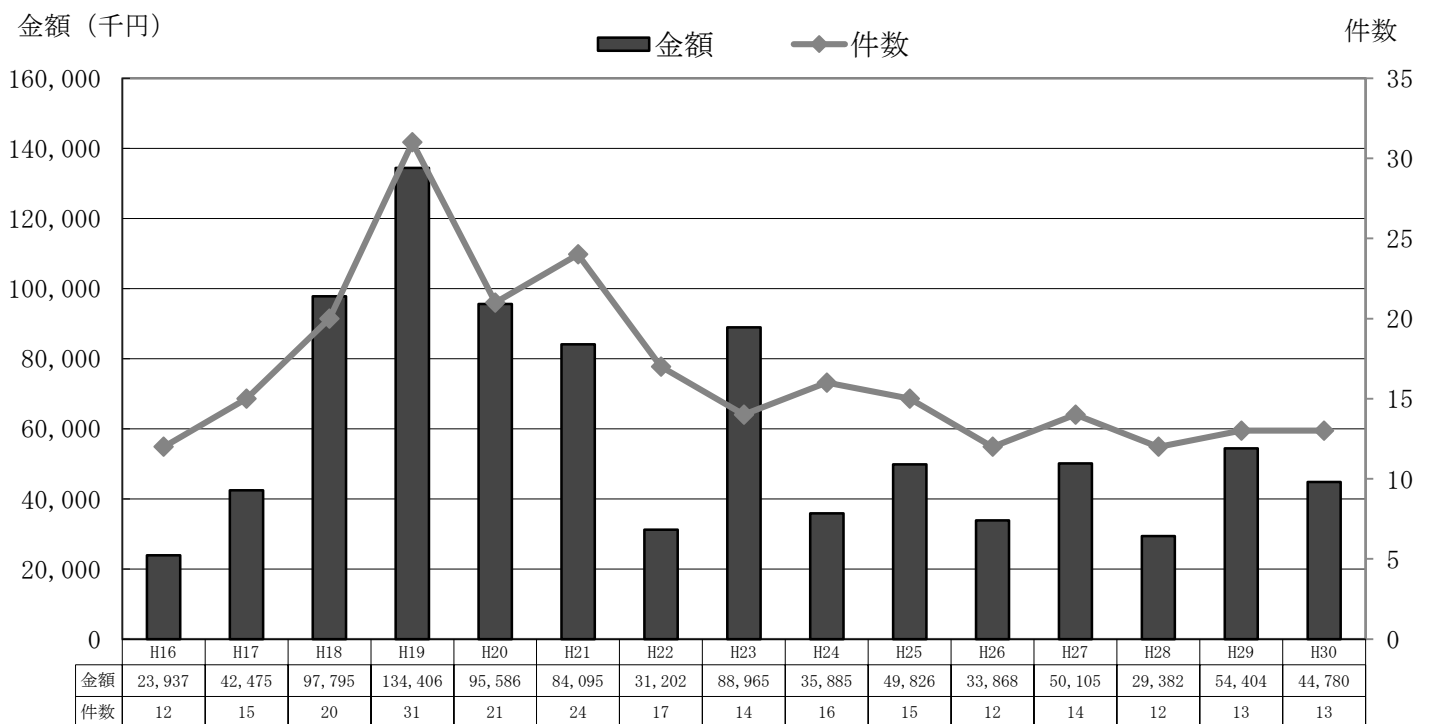
3) 共同研究等

共同研究・受託研究報告（平成 16 年度～平成 30 年度）

共同研究



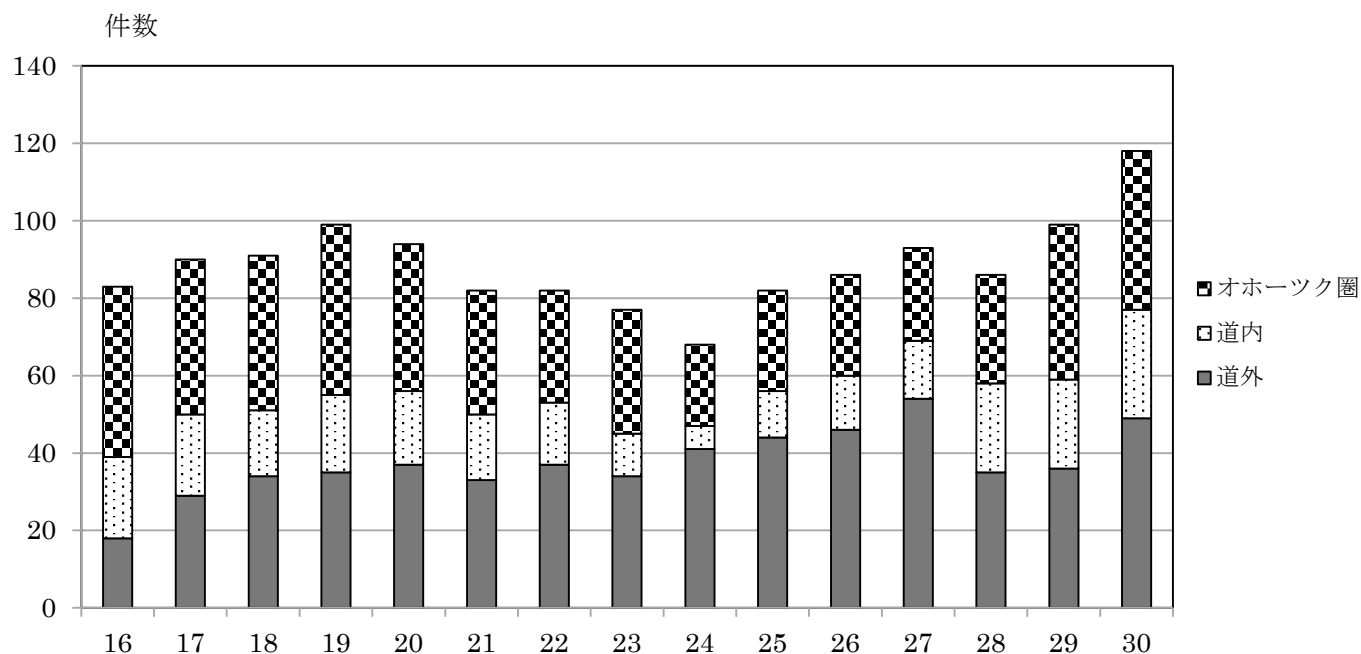
受託研究



北見工業大学 共同研究件数の推移

年 度 (平成)	道 外	道 内	オホーツク圏	総 件 数
16	18	21	44	83
17	29	21	40	90
18	34	17	40	91
19	35	20	44	99
20	37	19	38	94
21	33	17	32	82
22	37	16	29	82
23	34	11	32	77
24	41	6	21	68
25	44	12	26	82
26	46	14	26	86
27	54	15	24	93
28	35	23	28	86
29	40	23	36	99
30	49	28	41	118

【共同研究】オホーツク圏・道内・道外



平成 30 年度 共同研究受入一覧表

受付 番号	研 究 代 表 者			研 究 題 目	受入れ相手先
	氏 名	所 属	職 名		氏 名
1	梶井 文人	情報システム 工 学 科	准教授	カーリング競技の戦略シミュレータに関する研究	株式会社 AIS 北海道
2	中村 大	社 会 環 境 工 学 科	准教授	積雪寒冷地における切土法面の凍上対策に関する研究	独立行政法人土木 研究所 寒地土木 研究所
3	三上 修一	社 会 環 境 工 学 科	教授	社会基盤の維持・補修設計に関わる技術支援制度の実践運用のための共同研究	網走測量設計協会
4	井上 真澄	社 会 環 境 工 学 科	准教授	耐寒促進剤を用いたコンクリートの冬期施工に関する研究	国立研究開発法人 土木研究所 寒地 土木研究所
5	舘山 一孝	社 会 環 境 工 学 科	准教授	路面雪氷センシング技術の高度化に関する研究	国立研究開発法人 土木研究所 寒地 土木研究所
6	吉川 泰弘	社 会 環 境 工 学 科	准教授	積雪寒冷地を対象とした冬期の取水障害の対策技術の開発	新明和工業株式会社
7	吉川 泰弘	社 会 環 境 工 学 科	准教授	結氷河川におけるアイスジャム被害に対応する河川管理技術に関する研究	国立研究開発法人 土木研究所 寒地 土木研究所
8	渡邊 康玄	社 会 環 境 工 学 科	教授	河川における土砂の移動特性を考慮した河川管理技術に関する研究	国立研究開発法人 土木研究所 寒地 土木研究所／愛知 工業大学総合技術 研究所
9	川尻 峻三	社 会 環 境 工 学 科	助教	積雪寒冷地における既設補強土壁の健全度評価手法の確立に関する研究	国立研究開発法人 土木研究所 寒地 土木研究所
10	吉川 泰弘	社 会 環 境 工 学 科	准教授	積雪寒冷地河川のアイスジャム予測ツールの開発	北海道開発局 旭川開発建設部
11	舘山 一孝	地 球 環 境 工 学 科	准教授	海氷厚および海氷融解度推定アルゴリズムの開発	国立研究開発法人 宇宙航空研究開発 機構
12	渡邊 康玄	地域未来デザイン 工 学 科	教授	豪雨に伴う橋梁被害軽減のための計画と設計に関する検討	株式会社構研エン 지니어リング
13	井上 真澄	地域未来デザイン 工 学 科	准教授	機能性コンクリートに適用する化学混和剤の研究	日産化学工業株式 会社

平成 30 年度 共同研究受入一覧表

受付 番号	研 究 代 表 者			研 究 題 目	受入れ相手先
	氏 名	所 属	職 名		氏 名
14	舘山 一孝	地 球 環 境 工 学 科	准教授	積雪地域における雲の放射影響の研究	気象研究所
15	大野 智也	地 球 環 境 工 学 科	教授	セシウム酸化タングステン表面への ナノコーティング方法とその効果	株式会社リコー IMS 事業本部
16	亀田 貴雄	地 球 環 境 工 学 科	教授	VLF 帯電波受信機を用いた日本・ア ジア域で発生する雷放電のリアル タイム監視	国立大学法人北海 道大学
17	吉澤 真吾	地域未来デザイン 工 学 科	准教授	水中音響通信装置のシミュレーシ ョンソフトウェアの研究他	三菱電機特機シス テム株式会社
18	小西 正朗	地域未来デザイン 工 学 科	教授	低温環境におけるメタン発酵消化 液の効率処理法の開発	株式会社アクト
19	川村 彰	地域未来デザイン 工 学 科	教授	ワイヤレス路面性状測定装置の開 発	株式会社 PROFICT LAB
20	村田 美樹	地 球 環 境 工 学 科	教授	ハッカからの有効成分抽出法の開 発と評価	株式会社北見ハッ カ通商
21	村田 美樹	地 球 環 境 工 学 科	教授	ハッカ水蒸気残留残滓及び芳香蒸 留水の利活用	株式会社北見ハッ カ通商
22	村田 美樹	地 球 環 境 工 学 科	教授	人工光源による和種ハッカの育成	株式会社北見ハッ カ通商
23	川口 貴之	地 球 環 境 工 学 科	准教授	積雪寒冷地における屋根型路盤を 有する林道の性能評価	鶴居村森林組合
24	酒井 大輔	地域未来デザイン 工 学 科	助教	透明海洋生物の光学特性の役割解 明に関する研究	国立研究開発法人 産業技術総合研究 所／国立大学法人 琉球大学／学校法 人東海大学
25	川村 彰	地域未来デザイン 工 学 科	教授	平成 29 年度 注意喚起溝工法に関 する共同研究	株式会社高速道路 総合技術研究所／ 鹿島道路株式会社
26	阿部 良夫	地 球 環 境 工 学 科	教授	寒冷地に適したエレクトロクロミ ック・スマートウィンドウに関す る研究	北海道ガス株式会社 技術開発研究所

平成 30 年度 共同研究受入一覧表

受付 番号	研 究 代 表 者			研 究 題 目	受入れ相手先
	氏 名	所 属	職 名		氏 名
27	宮森 保紀	地域未来デザイン 工 学 科	准教授	低温環境下における免震ゴム支承 の力学特性	住友理工株式会社 免制震デバイス技 術部／日本鑄造株 式会社
28	富山 和也	地域未来デザイン 工 学 科	准教授	モバイルプロフィロメータを用い た冬期路面モニタリングに関する 基礎的研究	株式会社中神土木 設計事務所
29	鈴木 勉	工 学 部	特任教授	福島県産間伐材の鉄触媒炭化によ る機能性炭素の製造	株式会社 T P J 環境
30	古瀬 裕章	地 球 環 境 工 学 科	准教授	希土類添加透光性アルミナ多結晶 体の創製	国立研究開発法人 物質・材料研究機構
31	大津 直史	地 球 環 境 工 学 科	准教授	銀徐放性抗菌材料から発生するラ ジカル種の同定・定量	エビナ電化工業株 式会社
32	早川 博	地域未来デザイン 工 学 科	教授	北見市環境調査研究(大気、水質、 騒音・振動、臭気、ダイオキシン類)	北見市
33	早川 博	地域未来デザイン 工 学 科	教授	北見市生物調査研究	北見市
34	早川 博	地域未来デザイン 工 学 科	教授	北見市一般廃棄物処理に関する環 境調査並びにごみ質調査共同研究	北見市
35	柴田 浩行	地 球 環 境 工 学 科	教授	超伝導体を用いた検出器の研究	日本電信電話株式 会社 N T T 物性 科学基礎研究所
36	浪越 毅	地 球 環 境 工 学 科	准教授	玉ねぎ育苗用の培土に使用する固 化材及び固化方法の検討	森産業株式会社
37	鈴木 勉	工 学 部	特任教授	鉄触媒炭化による EFB ファイバー からの機能性炭素製造	株式会社トップブ ランニング JAPAN
38	小西 正朗	地域未来デザイン 工 学 科	教授	バイオ活性水の製造・品質管理に 関する基礎研究	株式会社環境ダイゼン
39	小西 正朗	地域未来デザイン 工 学 科	教授	「消臭液きえ〜る」の牛舎敷料中 乳房炎原因微生物生息数への影響 評価	株式会社環境ダイ ゼン／北オホーツ ク農業協同組合
40	南 尚嗣	地 球 環 境 工 学 科	教授	紋別市における下水汚泥・放流水 中の有害微量成分の定量に関する 長期的研究	紋別市下水道事業

平成 30 年度 共同研究受入一覧表

受付 番号	研 究 代 表 者			研 究 題 目	受入れ相手先
	氏 名	所 属	職 名		氏 名
41	林田 和宏	地 球 環 境 工 学 科	准教授	P C V ガス除湿システム基礎研究 その 6	株式会社ワークム 北海道
42	田村 淳二	地 球 環 境 工 学 科	教授	再エネ同期化力制御技術の研究	株式会社日立製作所 研究開発グループ テクノロジーイノ ベーション統括本部
43	南 尚嗣	地 球 環 境 工 学 科	教授	網走市における下水汚泥および放流 水中成分の長期モニタリング研究	網走市
44	南 尚嗣	地 球 環 境 工 学 科	教授	網走市能取污水处理施設における 放流水中成分の長期モニタリング 研究	網走市
45	早川 博	地域未来デザイン 工 学 科	教授	常呂川水系水質調査研究	常呂川水系環境保 全対策協議会
46	渡邊 達也	地 球 環 境 工 学 科	助教	土砂災害リスクの把握を目的とし た沖積錐の研究ー土砂災害リスク マップの作成を目指してー	地方独立行政法人 北海道立総合研究 機構
47	駒井 克昭	地 球 環 境 工 学 科	准教授	寒冷地における自然環境保全と維 持管理手法に関する研究	株式会社西村組
48	川口 貴之	地 球 環 境 工 学 科	准教授	寒冷地における地山補強土工の適 用性	日特建設株式会社
49	吉澤 真吾	地域未来デザイン 工 学 科	准教授	水中ドローン (ROV) 搭載型水中 音響通信システムの研究	株式会社SIX VOICE
50	川口 貴之	地 球 環 境 工 学 科	准教授	非破壊試験方法によるセメント系 固化処理土の強度推定に関する研 究開発	東亜建設工業株式会社
51	プタシンスキ, ミハウ エドモンド	地域未来デザイン 工 学 科	准教授	顔文字と言語表現の関連性に関す る研究	学校法人同志社 同志社大学
52	有田 敏彦	地球環境工学科・ 地域未来デザイン工学科	教授	風力発電機ブレードへの着氷雪特 性の研究	株式会社ユーラス エナジーホールデ ィングス
53	坂上 寛敏	地 球 環 境 工 学 科	助教	北見市浄化センター臭気成分の定 量に関する研究	北見市上下水道局
54	坂上 寛敏	地 球 環 境 工 学 科	助教	スクラムミックスセンター臭気成 分の定量に関する研究	北見市上下水道局

平成 30 年度 共同研究受入一覧表

受付 番号	研 究 代 表 者			研 究 題 目	受入れ相手先
	氏 名	所 属	職 名		氏 名
55	南 尚嗣	地 球 環 境 工 学 科	教授	北見市における下水汚泥及び放流水のモニタリング調査研究	北見市上下水道局
56	村田 美樹	地 球 環 境 工 学 科	教授	美幌町における下水汚泥・放流水中の微量成分の長期モニタリングに関する研究	美幌町
57	新井 博文	地域未来デザイン 工 学 科	教授	常呂産ニンニク加工物及び北見産タマネギ加工物の生理機能に関する研究	日本製菓工業株式会社
58	松村 昌典	地 球 環 境 工 学 科	准教授	住宅用 24 時間換気システムに関する研究	ケイ・マックインダストリー株式会社
59	小西 正朗	地域未来デザイン 工 学 科	教授	食品汚染微生物の分離と同定	出塚水産株式会社
60	大津 直史	地 球 環 境 工 学 科	准教授	レーザ加工を利用した自動車部品用金型の長寿命化技術の開発	地方独立行政法人 北海道立総合研究機構
61	駒井 克昭	地 球 環 境 工 学 科	准教授	野生動物を対象とした行動情報収集システムの開発	ノースワン株式会社
62	新井 博文	地域未来デザイン 工 学 科	教授	北海道産海藻フコイダンの機能評価	株式会社ファイナルフューチャーインターナショナル
63	吉澤 真吾	地域未来デザイン 工 学 科	准教授	音波伝搬シミュレーションによる音響通信性能推定技術の研究	株式会社 IHI
64	林田 和宏	地 球 環 境 工 学 科	准教授	ディーゼル機関の噴霧計測に関する基礎研究・燃焼解析に活かせる噴霧長・噴霧角・着火位置・蒸気濃度など噴霧特性の計測手法	いすゞ自動車株式会社 CAE デジタル開発推進部
65	川口 貴之	地 球 環 境 工 学 科	准教授	実物大注入マットとジオセルの併用工法による凍土・緑化に関する実験研究	株式会社興商
66	坂上 寛敏	地 球 環 境 工 学 科	助教	斜里町における環境試料（下水汚泥・放流水）中の微量環境有害成分の定量に関する長期的研究	斜里町
67	小針 良仁	地 球 環 境 工 学 科	助教	ウラル甘草含有機能性有機化合物の効率的抽出方法の開発	株式会社ローレル

平成 30 年度 共同研究受入一覧表

受付 番号	研 究 代 表 者			研 究 題 目	受入れ相手先
	氏 名	所 属	職 名		氏 名
68	大野 智也	地 球 環 境 工 学 科	教授	N i ナノ粒子へのチタン酸バリウムコーティング技術の開発	株式会社サムスン 日本研究所 横浜 研究所
69	酒井 大輔	地域未来デザイン 工 学 科	助教	微細構造を用いた光エネルギーの有効活用	オホーツク新エネルギー 開発推進機構
70	羽二生 稔大	地 球 環 境 工 学 科	特任助教	スパイラルマグナス風車の性能向上を目指して	オホーツク新エネルギー 開発推進機構
71	川口 貴之	地 球 環 境 工 学 科	准教授	積雪寒冷環境における水道管の浅層埋設に関する研究	北見市上下水道局
72	小西 正朗	地域未来デザイン 工 学 科	教授	寒冷地の効率的浄水処理に関する研究	北見市上下水道局
73	川口 貴之	地 球 環 境 工 学 科	准教授	実物大注入マットとジオセルの併用工法による凍土・緑化に関する実験研究	株式会社アヤメ緑 化工業 北見支店
74	菅野 亨	地域未来デザイン 工 学 科	准教授	浄水機能を有する暗渠パイプ用資材の探索および浄水システムの開発	有限会社門間建設
75	杉坂 純一郎	地域未来デザイン 工 学 科	助教	欠陥検出技術のためのアクティブ・サーモグラフィと磁気の過渡応答解析	株式会社東芝 生産技術センター
76	井上 真澄	地域未来デザイン 工 学 科	准教授	温水循環式エアーヒーターを用いたコンクリート給熱養生システムの構築	エクセン株式会社 ／日本高圧コン クリート株式会社
77	梶井 文人	冬季スポーツ科学 研究推進センター	センター長	カーリング情報学再び～市民リーグ戦試合情報の収集と分析	北見市産学官連携 推進協議会
78	林田 和宏	地 球 環 境 工 学 科	准教授	ディーゼル機関の軽負荷燃焼の改善ー白煙、臭気に関する研究ー	いすゞ自動車株式会社 エンジン実験第一部
79	小西 正朗	地域未来デザイン 工 学 科	教授	乳酸菌培養における天然基材組成の影響解析	北海道糖業株式会社
80	本間 雄二郎	地域未来デザイン 工 学 科	助教	バイオ活性水の植物生長促進効果に関する研究	株式会社環境ダイゼン
81	大野 智也	地 球 環 境 工 学 科	教授	炭素素材とホタテ貝殻粉末を複合化させた圃場散布用融雪剤の開発	株式会社常呂町産 業振興公社

平成 30 年度 共同研究受入一覧表

受付 番号	研 究 代 表 者			研 究 題 目	受入れ相手先
	氏 名	所 属	職 名		氏 名
82	中村 大	地 球 環 境 工 学 科	准教授	風化と凍結による岩盤斜面の被害 とその対策	北見土木技術協会
83	新井 博文	地域未来デザイン 工 学 科	教授	ハマナスや未利用資源を利用した 抗アレルギー等素材の開発	北見市／企業組合 北見産学医協働セ ンター
84	三上 修一	地域未来デザイン 工 学 科	教授	積雪寒冷地のコンクリート床版の 劣化メカニズムに関する研究	株式会社アサヒ建 設コンサルタント
85	岡崎 文保	地 球 環 境 工 学 科	准教授	触媒反応による高純度メタンからの グラフェン（ナノカーボン）の製造	東京ガスケミカル 株式会社
86	武山 眞弓	地 球 環 境 工 学 科	教授	遷移金属系材料の特性評価及び成 膜技術の研究	株式会社富士通研究所 デバイス&マテリアル 研究所
87	大津 直史	地 球 環 境 工 学 科	教授	レーザー窒化による鉄鋼材料高耐 久化に関する研究	中日クラフト株式会社
88	村田 美樹	オホーツク農林水産工学 連携研究推進センター	センター長	ハッカからの有効成分抽出法の開 発と評価	株式会社北見薄荷通商
89	村田 美樹	オホーツク農林水産工学 連携研究推進センター	センター長	ハッカ生草の利活用法の開発	株式会社北見薄荷通商
90	村田 美樹	オホーツク農林水産工学 連携研究推進センター	センター長	人工光源による和種ハッカの育成	株式会社北見薄荷通商
91	高橋 是太郎	オホーツク農林水産工学 連携研究推進センター	特任教授	牛尿完全醗酵生成物の魚類成育環 境水に対する水質改善効果に関す る研究	株式会社環境ダイゼン
92	高橋 是太郎	オホーツク農林水産工学 連携研究推進センター	特任教授	オホーツク海産ヒトデの高度利用 に関する研究	株式会社龍榮総研
93	古瀬 裕章	地 球 環 境 工 学 科	准教授	着氷雪除去のためのレーザー光源 の最適波長に関する研究	国立研究開発法人 土木研究所 寒地 土木研究所
94	舘山 一孝	地 球 環 境 工 学 科	准教授	雪氷モニタリングセンサのサブシ ステム技術の開発	国立研究開発法人 宇宙航空研究開発 機構／株式会社セ ンテンシア
95	宮崎 健輔	地域未来デザイン 工 学 科	助教	プラスチックの塗布型酸化促進剤 の高機能化に関する研究	双日株式会社／ ピーライフ・ジャパン ・インク株式会社

平成 30 年度 共同研究受入一覧表

受付 番号	研 究 代 表 者			研 究 題 目	受入れ相手先
	氏 名	所 属	職 名		氏 名
96	星野 洋平	地域未来デザイン 工 学 科	准教授	重量物搬送装置のシステム解析と 多用途最適化に向けた制御系構築 の研究	エクセン株式会社
97	川村 彰	地域未来デザイン 工 学 科	教授	ワイヤレス路面性状測定装置の開発	株式会社PROFICT LAB
98	原田 建治	地域未来デザイン 工 学 科	教授	参加型プロジェクションマッピング 教材の開発	株式会社アイエンター
99	鈴木 育男	地域未来デザイン 工 学 科	准教授	ドローン制御の共同開発	株式会社Zooops Japan
100	川村 彰	地域未来デザイン 工 学 科	教授	平成 30 年度 注意喚起溝工法に 関する共同研究	株式会社高速道路 総合技術研究所／ 鹿島道路株式会社
101	富山 和也	地域未来デザイン 工 学 科	准教授	車両挙動解析による路面プロファ イルのリアルタイム計測	株式会社要
102	小西 正朗	地域未来デザイン 工 学 科	教授	糖添加前処理による農産乾燥製品 の製品品質の向上と安定化	公益財団法人函館 地域産業振興財団 (北海道工業技術 センター)
103	山下 聡	地 球 環 境 工 学 科	教授	海底掘削装置の設計技術に関する 研究	株式会社三井E&S ホールディングス
104	武山 眞弓	地 球 環 境 工 学 科	教授	食肉の熟成に関する研究開発	株式会社MARS PRODUCTS
105	早川 博	地域未来デザイン 工 学 科	教授	既設道路横断施設下流に新設する 落差工の水理解析のための模型実験	株式会社中神土木 設計事務所
106	松村 昌典	地 球 環 境 工 学 科	准教授	バルーンカテーテルを用いた臓器 灌流用コネクタの開発研究	中央精工株式会社
107	小西 正朗	地域未来デザイン 工 学 科	教授	クモ糸フィブロインの生産量向上 に向けた培地組成の検討に関する 研究	Spiber株式会社
108	武山 眞弓	地 球 環 境 工 学 科	教授	エゾシカの利活用および地産地消 を目的としたレシピ開発	北見工業大学生生活 協同組合
109	星野 洋平	地域未来デザイン 工 学 科	准教授	微酸性電解水を利用したカボチャ の貯蔵性に関する研究	デノラ・ペルメレ ック株式会社

平成 30 年度 共同研究受入一覧表

受付 番号	研 究 代 表 者			研 究 題 目	受入れ相手先
	氏 名	所 属	職 名		氏 名
110	高井 和紀	地 球 環 境 工 学 科	准教授	GPSを用いた車両位置判定アルゴリズムの研究	株式会社ワーカム 北海道
111	中村 大	地 球 環 境 工 学 科	准教授	住宅用地における土留め擁壁の凍上被害の解明と対策工の確立	ミサワホーム北海 道株式会社
112	村田 美樹	オホーツク農林水産工学 連携研究推進センター	センター長	ガラスープの品質予測システムの構築	和弘食品株式会社
113	黒河 賢二	地域未来デザイン 工 学 科	教授	光給電を用いた通信方法に関する検討	日本電信電話株式会社 アクセスサービス システム研究所
114	武山 眞弓	地 球 環 境 工 学 科	教授	ラマン分光法による黒曜石産地同定の確立に向けた研究	遠軽町
115	武山 眞弓	地 球 環 境 工 学 科	教授	生体電気インピーダンス法における装置小型化について	国立大学法人新潟 大学
116	橋本 泰成	地域未来デザイン 工 学 科	准教授	室内温熱環境と睡眠の質に関する研究	北海道ガス株式会社 技術開発研究所
117	古瀬 裕章	地 球 環 境 工 学 科	准教授	パルス通電方式による光学材料の接合技術の研究	浜松ホトニクス株 式会社／大学共同 利用機関法人自然 科学研究機構 核 融合科学研究所
118	川口 貴之	地 球 環 境 工 学 科	准教授	老朽化した港湾施設における陥没危険箇所の抽出方法に関する研究	紋別市／北海設計 株式会社

※「所属」及び「役職」、「受入れ相手先」の表記は契約時のものです。

4) 産学官連携活動

交流イベント等出展状況

No	開催日	イベント名	開催場所
1	7/26 (木)	北洋銀行ものづくりテクノフェア 2018	北海道札幌市 (アクセスサッポロ)
2	8/30 (木) ～31 (金)	イノベーション・ジャパン 2018-大学見本市-	東京都江東区 (東京ビッグサイト)
3	9/20 (木)	Matching HUB Sapporo 2018	北海道札幌市 (札幌パークホテル)
4	10/10 (水) ～12 (金)	BioJapan2018	神奈川県横浜市 (パシフィコ横浜)
5	10/17 (水) ～19 (金)	公益社団法人 自動車技術会 2018 年秋季大会 「産学ポスターセッション～シーズとニーズの出会い～」	愛知県名古屋市 (名古屋国際会議場)
6	11/7 (水) ～10 (土)	メッセナゴヤ 2018	愛知県名古屋市 (ポートメッセなごや)
7	11/8 (木) ～9 (金)	ビジネス EXPO 「第 32 回北海道技術・ビジネス交流会」	北海道札幌市 (アクセスサッポロ)
8	11/16 (金) ～17 (土)	2018 アグリ ビジネス創出フェア in Hokkaido	北海道札幌市 (サッポロファクトリー)
9	11/20 (火) ～22 (木)	アグリ ビジネス創出フェア 2018	東京都江東区 (東京ビッグサイト)
10	1/9 (水) ～14 (月)	地域を彩る食物語	北海道北見市 (コミュニティプラザ パラボ)
11	1/17 (木)	オホーツク・スマート農業セミナー2019【畑作】	北海道北見市 (北見市民会館)

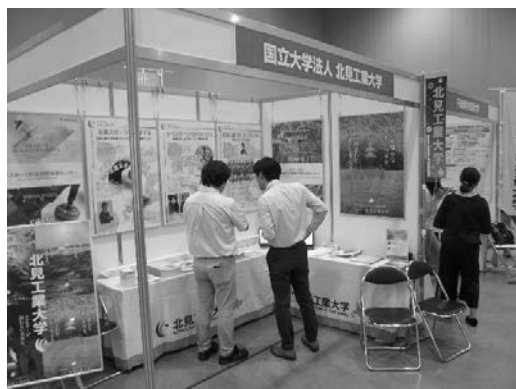
■イベント名：北洋銀行ものづくりテクノフェア 2018

■日 時：7月26日（木）

■会 場：アクセスサッポロ（北海道札幌市）

本フェアは北海道内のものづくり産業を振興するために開催され、本学は1回目から共催機関として出展している。出展機関は約200社・団体で、その内大学・高専からの出展は12件だった。本学からは2016年4月に開設された冬季スポーツ科学研究推進センターについて紹介した。会場ではパネルや動画を用いた展示の他、榊井文人センター長がタブレットを用いたカーリング戦術支援アプリケーション iCE の実演を行い、平昌オリンピックでも注目を集めたカーリング競技についての展示に来場者の関心が寄せられた。

また、北海道科学技術振興室は「北海道の AI/IoT 等先端技術の取組」と題して、道内の大学や企業の研究成果等の展示を行い、本学からは地域未来デザイン工学科 星野洋平准教授が取り組む「農薬散布機械の高速走行時における振動制御」の研究を紹介した。会場では星野准教授がプロトタイプの展示品を用いての研究紹介や、2018年7月に設置されたオホーツク農林水産工学連携研究推進センターについての紹介を行った。



本学ブース



北海道科学技術振興室ブース

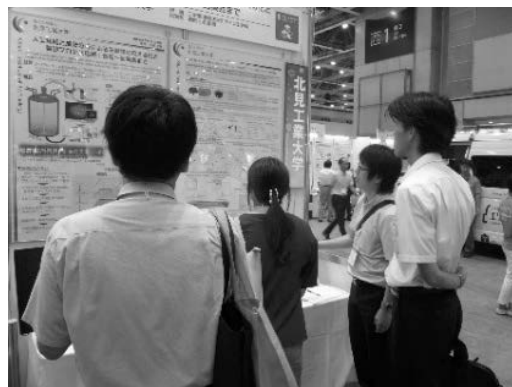
■イベント名：イノベーションジャパン 2018～大学見本市&ビジネスマッチング～

■日 時：8月30日（木）・31日（金）

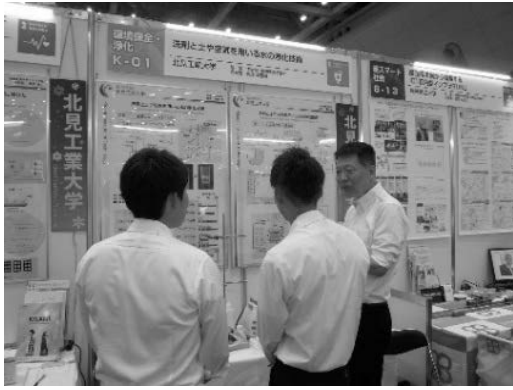
■会 場：東京ビッグサイト（東京都江東区）

本イベントは、国立研究開発法人新エネルギー・産業技術総合開発機構（NEDO）と国立研究開発法人科学技術振興機構（JST）が連携した、我が国の産学連携を強力に推進するための国内最大規模の産学マッチングイベントである。全国の大学・高専から400名が参加し、研究シーズ展示や大学組織展示、セミナーが行われた。本学からは、超スマート社会ゾーンに地域未来デザイン工学科 小西正朗教授が取り組む

「人工知能と成分分析による天然物の見える化と製造プロセス応用：食品～医薬品まで」、環境保全・浄化ゾーンに地球環境工学科 齋藤徹教授が取り組む「洗剤と土や空気を用いる水の浄化技術」、そして地域未来デザイン工学科 兼清泰正准教授が取り組む「家庭で手軽にできる環境・健康診断に向けた色調変化型センサー」の3つの研究が出展採択となり、紹介を行った。本展示会は共同研究等を目的として様々な業種から関心が寄せられているため、本学においても研究力向上に繋がる展示会として重視している。



説明を行う小西教授（右から2人目）



説明を行う齋藤教授（写真右）



説明を行う兼清准教授（写真左）

■イベント名：Matching HUB Sapporo 2018

■日 時： 9 月 20 日（木）

■会 場：札幌パークホテル（北海道札幌市）

本イベントは、北陸先端科学技術大学院大学が金沢で取り組み始めた産学官金連携の促進を目指したイベントのノウハウを小樽商科大学が活用し、2017 年に初めて開催された。北海道での研究者と事業者のマッチングを促進し、共同研究及び大学間連携の活性化を図ることを目的に本学を含め 75 団体が参加した。本学からは、地域未来デザイン工学科 小西正朗教授が取り組む「人工知能、統計的手法による培地成分からの発酵生産量予測」について、小西教授の研究室に所属する大学院 2 年の渡辺一樹さんが紹介した。地球環境工学科 中村大准教授は自身の所属する「寒地岩盤工学研究室」で取り組む研究について紹介を行った。また、今年新たに設けられた学生ブースでは社会環境工学科 4 年の長谷優之介さんと平井泰輔さんが、2 年次、3 年次の授業科目「オホーツク総合演習（地域で活躍する実務者の講演やフィールドワークを通じて、地域の課題を調査・発見、解決策を学生目線で提案）」で取り組んだ「北見市に農業高校の設置を」という提案について展示を行った。会場では 3 分間のミニセミナーも行われ、42 件の発表が行われた。



中村大准教授



渡辺一樹さん



平井泰輔さん（左）・長谷優之介さん（右）

■イベント名：BioJapan2018

■日時：10月10日（水）～12日（金）

■会場：パシフィコ横浜（神奈川県横浜市）

本イベントはバイオ・メディカル産業におけるアジア最大級のパートナーリングイベントである。国内外から製薬会社や医療機関、研究機関が多数参加し、同時開催の再生医療Japan2018と併せて来場者は1万6千人にのぼった。本学は2016年から北海道庁、札幌市、ノーステック財団が共同出展する「北海道バイオクラスター」ブース内に出展しており、2018年は地域未来デザイン工学科 小西正朗教授の取り組む「人工知能と成分分析による天然物の見える化と製造プロセス応用：食品～医薬品まで」について紹介を行った。本学では医工連携をテーマに研究を行っている研究者もおり、バイオメディカル・ヘルスケア技術に関する研究を紹介する貴重な機会となった。



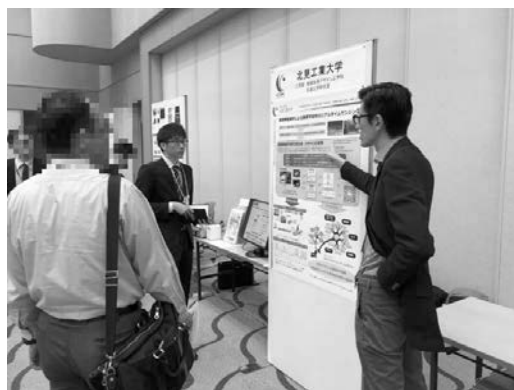
北海道バイオクラスターブース 研究紹介を行う小西教授（写真左）

■イベント名：自動車技術会 2018 年秋季大会 産学ポスターセッション

■日時：10月17日（水）～19日（金） ※出展は17日・18日の2日間

■会場：名古屋国際会議場（愛知県名古屋市）

本イベントは自動車技術会秋季大会のプログラムのひとつで、自動車技術に関する研究成果について全国から32の大学・高専がポスター発表を行った。本学は、技術広報の一環として本ポスターセッションに参加している。2018年は地域未来デザイン工学科交通工学研究室 富山和也准教授、川村彰教授が取り組む「車両挙動解析による路面平坦性のリアルタイムセンシング」、同ロボット制御・ITS研究室 川村武准教授が取り組む「RFIDシステムによる車線の情報化および車両誘導」について紹介した。会場では17日・18日の2日間、ブースでの説明や、モニターを用いた研究紹介などを行った。今回は自動車産業の盛んな地域での開催ということもあり、両ブースには自動車関連企業を中心に2日間で100名以上が来場した。



説明を行う富山准教授（写真右端）

■イベント名：メッセナゴヤ 2018

■日時：11月7日（水）～10日（土）

■会場：ポートメッセなごや（愛知県名古屋市）

本イベントは中京圏を中心とした自動車関連企業、名古屋地域のモノづくり企業が出展参加する日本最大級の異業種交流展示会で、1400を超える企業・団体が出展している。北海道では、中京圏市場に対し道内企業や学術機関の技術・製品等、高い技術のアピールを目的

として北海道ブースを設けており、19 の企業・団体と本学を含む 4 つの大学が出展した。本学は、地域未来デザイン工学科 富山和也准教授と川村彰教授が取り組む「車両挙動解析による路面平坦性のリアルタイムセンシング」について紹介を行った。7 日・8 日は富山准教授が説明を行い、自動車関連企業の来場者も多く集まる会場に関心を集めた。本学にとって中京圏でのイベント出展の機会は貴重であり、本学を全国に PR する上で重要なイベントとなっている。



北海道ブースの様子

■イベント名：第 32 回北海道技術・ビジネス交流会（ビジネス EXP0）

■日 時：11 月 8 日（木）・9 日（金）

■会 場：アクセスサッポロ（北海道札幌市）

本イベントは北海道内の産学官金の関係諸機関が協力し開催しており、毎年 350 以上の企業・団体が参加する北海道最大級の産業関連連携マッチングイベントである。本学は「学術・試験研究機関展示ゾーン」において、2018 年 7 月に設置された「オホーツク農林水産工学連携研究推進センター」についてパネル展示と紹介を行った。来場者は過去最高を記録し、本学ブースも賑わいを見せた。また、札幌近郊の学生も見学に訪れ、大学案内なども行った。本イベントには例年、出展者や来場者として本学出身の先輩達も数多く訪れ、大学と企業のつながりを深めるためにも重要な機会となっている。



本学ブースの様子

■イベント名：2018 アグリビジネス創出フェア in Hokkaido ―北海道の食と農の明日へー

■日 時：11 月 16 日（金）・17 日（土）

■会 場：サッポロファクトリー（北海道札幌市）

本フェアは、同年東京で行われた「アグリビジネス創出フェア」の北海道版という位置づけで開催され、食や農業に関する約 30 の企業・団体が参加した。今回は 2018 年 7 月に設置された「オホーツク農林水産工学連携研究推進センター」と「工学連携推進型 6 次産業人材育成事業（以下、工農事業）」について紹介を行った。また、共同出展の北見市雇用創造協議会からは、工農事業の受講生が開発に携わった大豆粉の「ソイフロランタン」とカーリングストーンの形状をした「ストーンクッキー」の試食も行われ、多くの来場者の興味を集めた。本学ブースではこれら商品に関するアンケートも行い、今後の商品開発において有益な情報を得ることができた。会場には本学の卒業生も来場し、今回紹介した取り組みをはじめ、最近の大学の状況を知っていただく機会となった。



本学の展示ブース

■イベント名：アグリビジネス創出フェア 2018

■日時：11月20日（火）～22日（木）

■会場：東京ビッグサイト（東京都江東区）

本フェアは、全国の公的機関等有する農林水産・食品分野などの最新の研究成果を紹介し、研究機関間や事業者との連携を促す場として農林水産省が主催し、今回は全国から148機関が参加した。本学は、平成18年度から実施している「工学連携推進型6次産業人材育成事業（以下、工農事業）」と2018年7月に設置された「オホーツク農林水産工学連携研究推進センター」について紹介し、22日には同センター長の村田美樹教授が、センターの概要や特色についてプレゼンテーションを行った。また、工農事業の受講生が開発に携わった製品の試食とアンケート調査も行われ、今後の製品開発に役立つ貴重な意見を伺うことができた。本イベントへの参加は、地域の農林水産業の支援・発展に工学的な視点から貢献する本学の取組を知っていただく貴重な場となった。



本学ブース



村田センター長によるプレゼンテーション

■イベント名：地域を彩る食物語～大学からの発信　こだわりのあるおいしいものの販売!!～

■日時：1月9日（水）～14日（月）

■会場：コミュニティプラザパラボまちきた大通ビル（北海道北見市）

本イベントは北見市産学官連携推進協議会の主催、本学の共催で、例年北見市で行われる高知物産展と同時開催されている。今回は長崎大学、東京農業大学、日本赤十字北海道看護大学、帯広畜産大学と本学の5大学とオホーツク地域振興機構、北見市雇用創造協議会の2機関が参加し、研究成果発表や開発商品の試食、ブースプレゼンテーションを行った。



村田センター長による講演

本学と帯広畜産大学、オホーツク圏地域振興機構からは、

工学的・専門的知識に基づく「食」をキーワードとした工学的農業クリエイター育成事業の受講生が成果報告を行った。初日にはサテライトオフィス北見にて、オホーツク農林水産工学連携研究推進センター長の村田美樹教授による「オホーツク農水産品の持続的な生産に向けて」の講演と情報交換会が行われ、参加者の交流を深める場となった。



パネル展示の様子

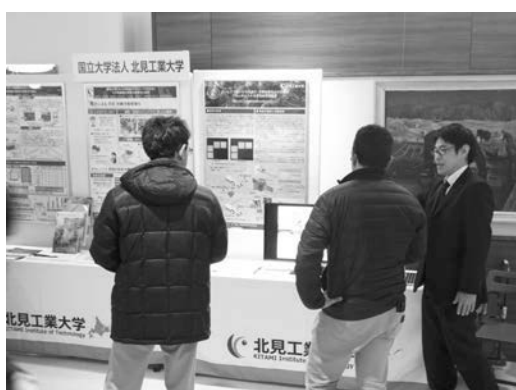
■イベント名：オホーツク・スマート農業セミナー2019【畑作】

■日 時：1月17日（木）

■会 場：北見市民会館（北海道北見市）

本セミナーは、オホーツク総合振興局や農業関係機関が構成員として参加するオホーツク・スマート農業推進会議が主催で開催された。セミナーには農業従事者や研究機関、官公庁などから300名近くが参加し、会場ではセミナーの他、ドローンやアシストスーツなどの展示・紹介が行われた。

本学はパネル展示を行い、地域未来デザイン工学科 星野洋平准教授と地球環境工学科電力工学研究室の菊池さん、村上さん、依藤さんの学生3名が取り組む研究について来場者へ説明を行った。工業大学からの参加ということで、来場者からは「農業に関する研究が行われている事を初めて知った。」という声も聞かれた。セミナー終了後もブースでは展示に関する説明に熱心に耳を傾ける来場者の姿が見られた。本セミナーへの参加は農業従事者の声を直接聞くことのできる貴重な場となり、また他機関との連携強化にも繋がった。



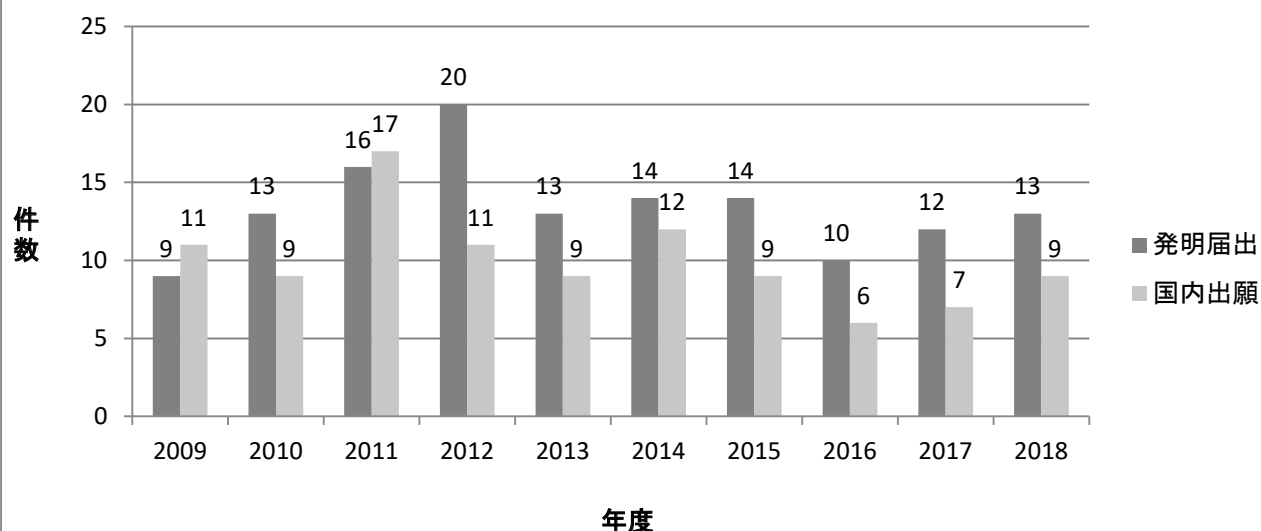
パネル展示の様子

※「所属」及び「役職」の表記は開催時のものです。

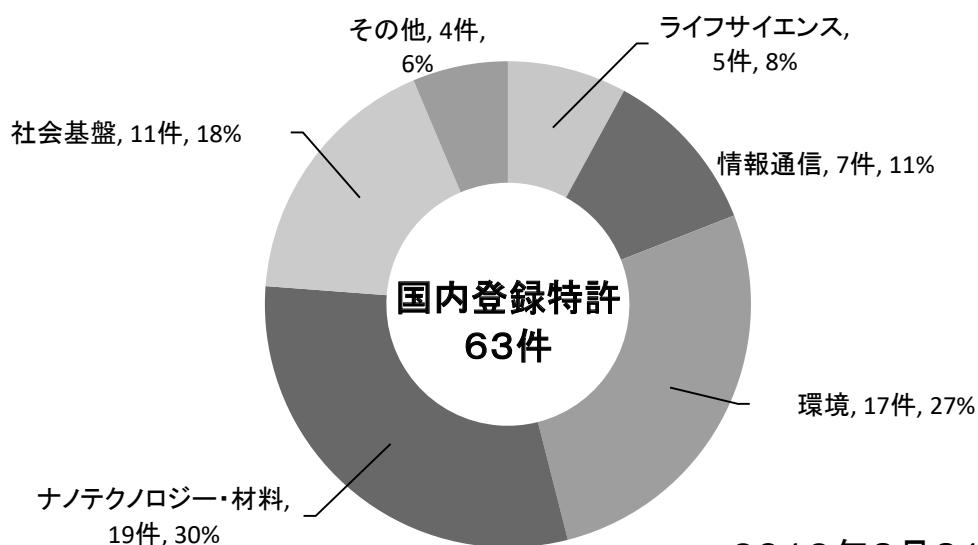
5) 知的財産活動実績

本学では、研究の成果を知的財産として権利化し活用する活動を進めている。平成 21 年度からは研究者ごとの個別面談をベースに知的財産活動の重点を研究より上流過程にシフトしており、研究の早い段階から知的財産面からの支援を行っている。また、近年、国内出願数が 10 件程度で推移しており、基本的な知的財産活動の趣旨を啓発から質的向上へとフェーズアップさせている。国内登録特許件数は、所有する知的財産の評価・見直しを行っており、近年 60 件程度で推移している。その技術分野は、ライフサイエンスをはじめ、情報通信、環境、ナノテクノロジー・材料など広範に及んでいる。

発明届出・国内特許出願件数 年度別推移



国内登録特許件数 分野別累計



2019年3月31日現在

6) 地域再生人材育成プログラムの推進

「工学連携推進型地域 6 次産業人材育成事業」第 13 期の実施

【(旧) 新時代工学的農業クリエイター人材創出プラン】

平成 18 年度より 5 年間続けてきた「新時代工学的農業クリエイター人材創出プラン」は、平成 23 年度においては北見市の協力により「産学官連携第 6 次産業人材育成事業」として、平成 24 年度はオホーツク総合振興局「オホーツク「食」の地域資源付加価値向上事業」により継続することができ、平成 25 年度においては北見市の協力により「地域資源付加価値向上 6 次産業人材育成事業」として実施してきた。また、これまで同様北見工業大学発ベンチャー企業である企業組合北見産学医協働センターが事業採択を受け、大学の人材育成を連携して運営するという形式で進めてきた。また、平成 26 年度からは北見市雇用創造協議会との連携の中で運営している。

(1) 開発課題概要

①未利用野菜を活用した商品開発

北見市内で栽培されているチコリの未利用部分である根を利用したプリンやスープなどの商品開発を行った。チコリの根はフランスなどでは“チコリコーヒー”として親しまれているが、新たな活用方法を目指し、地元シェフと北見市雇用創造協議会との連携によりプリン、スープを作成した。

②ニシン等を活用した新商品の開発

北見市雇用創造協議会との連携で進めた課題。オホーツク海産ニシンやキュウリウオの活用を目指したアンチョビ風商品の開発を行った。風味づけに地元産ローズマリーを使用し、ソースタイプの商品の試作を行った。今後、地元で魚類加工品を製造しているメーカーなどと連携し商品化を目指す。

③大豆ミートを活用したカレーの開発

昨年度商品開発を行った大豆ミートを活用し、肉を使わないヘルシーなカレーの開発を行った。地元のカレーショップとの共同開発でスパイス等にこだわった味付けとした。

④地元発のお土産品の開発

北見市の地域スポーツであるカーリングをモチーフにしたスイーツの開発を行った。カーリングストーン型のスイーツで地元産米の「どん(ポン菓子)」を利用したクッキーを作成した。オリンピック等での活躍など地元に着目したスポーツを盛り上げる商品として地元菓子店より商品化の予定である。

⑤チコリコーヒーの酸化ストレス抑制効果（学生）

未利用野菜を活用した商品開発に関連し、チコリ根を焙煎して得られたチコリコーヒーの酸化ストレスに対する有効性を検証した。焙煎したチコリの抽出物には、酸化ストレスによる動脈硬化抑制等の可能性が示唆された。本研究は未利用部の有

効利用に関する商品開発として行われており、機能性食材の開発研究の一環として今後も生理活性等を明らかにし、商品化を行っていく。

(2) 地域の販売イベント等

①インフォメーションバザール in Tokyo 2018（東京都）

日 時：平成 30 年 9 月 6 日（木）10：00～17：00

平成 30 年 9 月 7 日（金）10：00～16：00

会 場：池袋サンシャインシティ ワールドインポートマートビル 4 階

主 催：北洋銀行、帯広信用金庫

東京都で開催された「インフォメーションバザール in Tokyo 2018」へ参加した。本イベントは、主に北海道の食品を首都圏に向けて紹介し、市場における販売ルートの開拓や販路拡大を目指す実践的な商談会であった。本イベントでは、受講生 2 名が地域食品加工（特にオホーツク地域）に関するアンケートを行った。

本事業の過去の受講生の開発商品の PR なども行われており、修了生が継続して商品開発などに携わっていることで、本事業の有用性を確認できた。

②第 3 回オホーツク農大マルシェ（網走市）

日 時：平成 30 年 10 月 6 日（土）10：00～15：00（7 日は台風により中止）

会 場：東京農業大学オホーツクキャンパス

主 催：東京農業大学

東京農業大学で毎年開催されている「収穫祭」と連携し実施されたマルシェに参加した。本イベントでは、主に東京農大オホーツクキャンパスで行われている人材育成事業の市場調査も含めて行われており、あわせて食の安全や大切さを知ってもらうことを目的としている。

本イベントにおいても、受講生 1 名が販売実習を行った。

③輝農祭～美味しく育つ有機農業、安心安全！～（大空町）

日 時：平成 30 年 10 月 14 日（日）10：00～15：00

会 場：道の駅「メルヘンの丘めまんべつ」

主 催：輝農祭実行委員会

大空町で開催された「輝農祭」へ参加した。本イベントは、今年で 16 回目であり、有機農業を通して、食の安全や大切さを知ってもらうことを目的としている。

地元の小学生が育てたかぼちゃの販売、料理実習、近隣地域からの出店、地元小・中・高校生のステージや北見工業大学学生による、おもしろ科学実験の体験などのイベントが催された。

本イベントにおいても、修了生 1 名、受講生 3 名が屋外販売を含め販売実習を行った。

④2018 アグリビジネス創出フェア in Hokkaido（札幌市）

日 時：平成 30 年 11 月 16 日（金）～17 日（土）10：00～17：00

会 場：サッポロファクトリー

主 催：NPO 法人グリーンテクノバンク、農林水産省

本イベントは、“北海道の食と農の明日へ”と題し、北海道地域の農業、食品産業及び関連産業の活性化を目指し、産学官連携による技術開発の促進、起業化・事業化チャンスの発掘とビジネス・ネットワークの拡大を図るとともに、産業の技術開発と新技術の普及の大切さを市民に伝えることを目的としている。

農業、食品分野の技術交流展示、ステージプレゼンテーションなど一般の方にも開かれた展示会である。

本イベントへは、受講生2名の試作品（ニシンのアンチョビ風、カーリングストーンクッキー等）ならびにこれまでの商品展示紹介、広くたくさんの方に認知していただけるよう紹介を行った。現在進めている開発商品へ利用可能な技術の知得とビジネス・ネットワークの拡大に努めた。

⑤アグリビジネス創出フェア2018（東京都）

日 時：平成30年11月20日（火）～22日（木）10：00～17：00

会 場：東京ビッグサイト

主 催：農林水産省

東京都で開催されている「アグリビジネス創出フェア2018」に参加した。本イベントは、産学官の各機関が、農林水産・食に関する最新の技術を持ち寄り交流することを通じ、新たなビジネスの芽を創出する事を目的として毎年開催されている。

ブースでは大学におけるバイオ関連研究内容の説明、人材育成事業についての情報提供などを行い、来場者との交流を図った。

本イベントには、受講生2名が参加し、試作品の展示、アンケート調査を行った。そのほか、来場者に商品PRを行うとともに、商品についての意見、要望等を伺った。展示品については試食をしなかったため、バイヤーに製品を配り受講生に内容を知らせた。また、展示内容について情報交換を行い、各出品者に内容をフィードバックした。

⑥地域を彩る食物語～大学からの発信 こだわりあるおいしいものの販売!!～

日 時：平成31年1月9日（水）～14日（月）9：00～18：00

会 場：コミュニティプラザパラゴ5階

主 催：北見市産学官連携推進協議会

共 催：北見工業大学

各地域の大学が実施している食農人材養成事業の成果品等を発表するとともに、食農人材養成事業について市民の皆様に周知することを目的として北見工業大学が共催しているイベントである。

人材育成事業内容の発表、受講生の成果報告、事業の中で開発した商品や大学の技術を利用して製品化した商品を紹介し、“食と健康”、“人材育成”をキーワードとした地域興しの意識を広く共有し向上させることを目的としている。

本年で9回目を迎えるイベントで、5階催事場にて高知物産展との併催で開催した。

また、「オホーツク農水産品の持続的な生産に向けて」と題し、オホーツク農林水産工学連携研究推進センター長、村田美樹教授が、本学の地域の農林水産業の課題への取り組みについて講演した。



開会式（川村会長挨拶）



来賓挨拶（北見市山田商工部長）



会場の様子



講演会の様子

(3) 講演会等

① 講演会『地方だからできること 強みと食の力 この町にしかない食で人を呼ぶ』

日 時：平成 31 年 3 月 10 日（日）17：30～18：30

会 場：ホテル黒部

主 催：北見市技能普及実行委員会

講 師：天野洋海 氏（新ひだか町「お料理あま屋」店主）

本講演は、日高管内 7 町活性化を目的とする広域民間団体「H I D A K A おもてなし部会」共同代表の天野洋海氏を講師に迎え、地元食材を使ったメニューによる交流人口増加の実例、地域イベントによる管内の活性化などの事例をあげ、食による観光客流入の効果等を講演いただいた。観光と食に関係する諸団体および大学関係者等皆様を中心に集まっていたいただき、一次産業が中心のオホーツク圏においても実践可能な「食」を中心とした産業振興へのきっかけづくりとした。

②北見市技能普及講演会「地元食材活用講演会」

～新たな原料原産地表示制度に関して～

日 時：平成 31 年 3 月 25 日（月）15：30～

会 場：北見工業大学 社会連携推進センター

主 催：北見市技能普及実行委員会

講 師：玉井修次 氏 農林水産省 北海道農政事務所

消費・安全部 表示・企画課長

加工食品等の製造・商品化において、食品の安心・安全の観点から、すべての加工食品において、原材料・食品添加物の新たな表示義務制度がスタートする。

本講演会は新たな食品表示制度の概要について解説をいただき、食の安心・安全の基本的な考え方を学ぶとともに、消費者への正しい情報提供を目指した表示方法について学んだ。

※北見工業大学・帯広畜産大学・東京農業大学による 3 大学合同セミナーは天候不良により開催が中止となった。

(4)今後について

本事業を通して帯広畜産大学、東京農業大学オホーツクキャンパスとの連携も深まり、本年度も道東地区、とりわけオホーツク、十勝においては、6 次産業化の動きがより活発化しているのを感じている。また、本事業の本質である「第一次産業の工業化」に向けて徐々に地域の足並みもそろってきている事を再確認できている。このことは、これまで進めてきている産学官連携による産業振興は人材育成を行いつつ地域特性を生かした商品作りを試み、販促活動、市場調査を進めることが、かなり有効な手段と全国的に理解されてきていると考えている。したがって、今後も新たな機関との連携を強化しつつ、これまでの機関ともより強固な協力体制により継続できるよう努力していきたいと考えている。

7) 各種会議報告

◇社会連携推進センター産学官連携推進員・協力員合同会議

会議名称	社会連携推進センター産学官連携推進員・協力員合同会議	
開催状況	日 時	平成 30 年 10 月 30 日(火) 14:00～16:30
	審議事項	1 オホーツク農林水産工学連携研究推進センターについて
		2 卒業生の地元定着を目的とした本学の取組みについて
		3 その他

◇北見工業大学社会連携推進センター推進協議会

会議名称	北見工業大学社会連携推進センター推進協議会総会	
開催状況	日 時	平成 30 年 4 月 26 日(木) 14:30～16:15
	審議事項	1 報告第 1 号 平成 29 年度事業報告
		2 報告第 2 号 平成 29 年度決算報告
		3 報告第 3 号 平成 29 年度監査報告
		4 議案第 1 号 平成 30 年度事業計画(案)
		5 議案第 2 号 平成 30 年度予算(案)
		6 議案第 3 号 役員改選について
		7 その他

◇北見市産学官連携推進協議会

会議名称	北見市産学官連携推進協議会	
開催状況	日 時	平成 30 年 5 月 17 日(木) 14:30～16:00
	審議事項	1 報告第 1 号 平成 29 年度事業報告について
		2 報告第 2 号 平成 29 年度決算報告について
		3 報告第 3 号 平成 29 年度監査報告について
		4 議案第 1 号 平成 30 年度事業計画(案)について
		5 議案第 2 号 平成 30 年度予算(案)について
		6 その他

◇社会連携推進センター運営会議

会議名称	第1回社会連携推進センター運営会議	
開催状況	日 時	平成30年4月19日(木) 13:30～14:45
	審議事項	1 社会連携推進センター推進協議会平成30年度総会について
		2 その他
	報告事項	1 平成29年度第12回教育研究評議会について
		2 その他

会議名称	第2回社会連携推進センター運営会議	
開催状況	日 時	平成30年7月12日(木) 13:00～14:15
	審議事項	1 平成30年度社会連携推進センターの活動について
		2 平成29年度社会連携推進センター決算及び平成30年度社会連携推進センター予算について
		3 オホーツク管内市町村訪問におけるヒアリングについて
		4 その他
	報告事項	1 社会連携推進センターの利用について
		2 その他

会議名称	第3回社会連携推進センター運営会議	
開催状況	日 時	平成30年9月19日(水) 13:00～13:55
	審議事項	1 社会連携推進センター実験室等の利用について
		2 韓国江原大学校との協定について
		3 その他
	報告事項	1 平成30年度市町村訪問について
		2 第31回国立大学法人共同研究センター等教員会議について
		3 平成30年度工農教育プログラムについて
		4 産学官連携を目的とした技術広報イベント等に係る出展状況について
		5 その他

会議名称	第4回社会連携推進センター運営会議	
開催状況	日 時	平成31年3月6日(水) 9:00～9:45
	審議事項	1 平成31年度社会連携推進センター客員教授について
		2 平成31年度社会連携推進センター利用申請について
		3 その他
	報告事項	1 平成30年度社会連携推進センター活動について
		2 平成30年度市町村訪問について
		3 社会連携推進センターニュースレター「with」の発刊について
		4 その他

○	学 内
◆	学 外

8) 平成 30 年度 活 動 日 誌

- 4 / 19 (木) ○平成 30 年度第 1 回社会連携推進センター運営会議
- 4 / 20 (金) ◆科学技術・学術審議会 産業連携・地域支援部会 科学技術イノベーション推進委員会(第 1 回) (東京都千代田区)
- 4 / 26 (木) ○北見工業大学社会連携推進センター推進協議会平成 30 年度総会
- 5 / 15 (火) ◆科学技術・学術審議会 産業連携・地域支援部会 科学技術イノベーション推進委員会(第 2 回) (東京都千代田区)
- 5 / 17 (木) ◆北見市産学官連携推進協議会平成 30 年度総会
- 5 / 21 (月) ◆平成 30 年度北見地域企業立地促進協議会総会
- 5 / 22 (火) ◆オホーツク産学官融合センター運営委員会
- 5 / 28 (月) ◆平成 30 年度第 1 回北見市中小企業振興審議会
- 5 / 31 (木) ◆平成 30 年度ノーステック財団「研究開発助成事業」第 1 回審査委員会
- 6 / 10 (日) ◆NHK 学生ロボコン 2018 (東京都大田区)
- 6 / 11 (月) ◆科学技術・学術審議会 産業連携・地域支援部会 科学技術イノベーション推進委員会(第 3 回) (東京都千代田区)
- 6 / 15 (木) ◆産学連携学会第 16 回大会【山口大会】(山口県山口市)
- 6 / 19 (火) ○第 1 回オホーツク地域エネルギー環境教育研究会
- 6 / 22 (金) ◆産業クラスター研究会オホーツク平成 30 年度定期総会
- 6 / 24 (日) ○カーリングトークショー
- 6 / 25 (月) ◆北見工業大学・東京農業大学・江原大学校 日韓ジョイントシンポジウム (韓国春川市)
- 6 / 29 (金) ◆第 10 回コラボ産学官通常総会 (東京都千代田区)
- 7 / 3 (月) ◆「食に関するミニ補助事業」審査委員会
- 7 / 9 (月) ◆産学連携学会北海道支部 2018 産学連携セミナー (北海道札幌市)
- 7 / 12 (木) ○平成 30 年度第 2 回社会連携推進センター運営会議
- 7 / 13 (金) ◆第 65 回北見ぼんちまつり 舞踊パレード
- 7 / 23 (月) ◆平成 30 年度北海道ビジネスフォーラム (東京都千代田区)
- 7 / 26 (木) ◆北洋銀行ものづくりテクノフェア 2018(北海道札幌市)
◆科学技術・学術審議会 産業連携・地域支援部会 科学技術イノベーション推進委員会(第 4 回) (東京都千代田区)
- 8 / 1 (水) ◆こども霞ヶ関見学デー (東京都千代田区)
- 8 / 23 (木) ◆科学技術・学術審議会 産業連携・地域支援部会 科学技術イノベーション推進委員会(第 5 回) (東京都千代田区)
- 8 / 30 (木) ◆イノベーション・ジャパン 2018—大学見本市&ビジネスマッチング—(東京都江東区)
◆平成 30 年度第 1 回北海道科学技術審議会 (北海道札幌市)
- 9 / 6 (木) ◆第 31 回国立大学法人共同研究センター専任教員会議 (東京都調布市)
- 9 / 12 (水) ◆科学技術・学術審議会 産業連携・地域支援部会 科学技術イノベーション推進委員会(第 6 回) (東京都千代田区)
◆市町村訪問 美幌町
- 9 / 13 (木) ◆市町村訪問 湧別町
- 9 / 19 (水) ○平成 30 年度第 3 回社会連携推進センター運営会議
- 9 / 20 (木) ◆Matching HUB Sapporo 2018 (北海道札幌市)
◆市町村訪問 津別町、大空町
- 9 / 25 (火) ○リサイクルビジネスワークショップ
- 9 / 28 (木) ◆第 30 回国立大学法人共同研究センター長等会議(長野県長野市)

- 10 / 1 (月) ○平成 30 年度工学連携推進型地域 6 次産業人材育成事業開講式
- 10 / 2 (月) ◆市町村訪問 置戸町、訓子府町
- 10 / 5 (金) ◆市町村訪問 小清水町、斜里町、清里町
- 10 / 10 (水) ◆BioJapan2018(神奈川県横浜市)
- 10 / 14 (日) ◆輝農祭「北見工大おもしろ科学塾」(北海道網走郡大空町)
- 10 / 17 (水) ◆自動車技術会 2018 年秋季大会 産学ポスターセッション(愛知県名古屋市)
- 10 / 24 (水) ◆平成 30 年度北海道地域大学等知的財産部門連絡会議(北海道室蘭市)
- 10 / 29 (月) ◆科学技術・学術審議会 産業連携・地域支援部会 科学技術イノベーション推進委員会(第 7 回)(東京都千代田区)
◆市町村訪問 紋別市、西興部村、滝上町
- 10 / 30 (火) ◆平成 30 年国立大学法人北見工業大学社会連携推進センター産学官連携推進員・協力員合同会議
- 11 / 7 (水) ◆メッセナゴヤ 2018 (愛知県名古屋市)
- 11 / 8 (木) ◆第 32 回北海道技術・ビジネス交流会(ビジネス EXPO)(北海道札幌市)
- 11 / 12 (月) ◆「先端融合領域イノベーション創出拠点形成プログラム」評価作業部会(東京都千代田区)
- 11 / 16 (金) ◆2018 アグリビジネス創出フェア in Hokkaido(北海道札幌市)
- 11 / 20 (火) ◆アグリビジネス創出フェア 2018(東京都江東区)
- 11 / 29 (水) ◆産学連携学会関西中四国支部 第 10 回研究・事例発表会(岡山県岡山市)
- 12 / 15 (土) ◆北の四大学ビジネスプラン発表会(北海道札幌市)
- 12 / 21 (金) ◆標準化と知的財産教育 FD セミナー(福岡県福岡市)
- 1 / 9 (水) ◆地域を彩る食物語
- 1 / 17 (木) ◆オホーツク・スマート農業セミナー2019【畑作】
- 1 / 18 (金) ◆文部科学省地域科学技術イノベーション推進委員会(東京都千代田区)
- 2 / 13 (水) ◆科学技術・学術審議会 産業連携・地域支援部会 科学技術イノベーション推進委員会(第 11 回)(東京都千代田区)
- 2 / 14 (木) ◆「先端融合領域イノベーション創出拠点形成プログラム」事後評価作業部会(東京都千代田区)
- 3 / 2 (土) ○北見工業大学オホーツク農林水産工学連携研究推進センター第 1 回シンポジウム
- 3 / 6 (水) ○平成 30 年度第 4 回社会連携推進センター運営会議
- 3 / 9 (土) ◆オホーツク医学大会
- 3 / 10 (日) ◆北見市技能普及講演会「この町にしかない食で人を呼ぶ」
- 3 / 11 (月) ◆(公財)北海道科学技術総合振興センター第 8 回企画委員会(北海道札幌市)
- 3 / 12 (火) ◆平成 30 年度イノベーション人材育成委員会(東京都千代田区)
- 3 / 13 (水) ○平成 30 年度工学連携推進型地域 6 次産業人材育成事業修了式
◆山口大学知財教育研究共同利用拠点運営委員会(東京都港区)
- 3 / 20 (水) ◆市町村訪問 雄武町
- 3 / 25 (月) ◆地元食材活用講習会「新たな原料原産地表示制度に関して」

2. 付録

- ・センター関連規程
- ・技術相談申込書

■ 社会連携推進センター関連の規程 ■

1. 北見工業大学社会連携推進機構規程
2. 北見工業大学社会連携推進センター要項
3. 北見工業大学社会連携推進センター利用内規
4. 北見工業大学学術推進機構規程
5. 北見工業大学社会連携推進センター産学官連携推進員要項
6. 北見工業大学社会連携推進センター産学官連携推進協力員内規
7. 北見工業大学社会連携推進センター運営会議内規
8. 北見工業大学研究支援室要項

規程の詳細につきましては、本学ホームページをご覧ください。

<http://www.kitami-it.ac.jp/>

令和 年 月 日

所属：

役職：

氏名：

住所：〒

TEL：

FAX：

技 術 相 談 申 込 書

〈相談事項〉

〈 申込書送付先 〉

〒090-0013 北海道北見市柏陽町603番地2

国立大学法人北見工業大学社会連携推進センター（旧地域共同研究センター）

T E L ： 0157-26-4161

F A X ： 0157-26-4171

E-mail：chiiki@desk.kitami-it.ac.jp

国立大学法人北見工業大学 社会連携推進センター年報第17号 平成30年度

発行日 令和元年10月

発行者 国立大学法人 北見工業大学 社会連携推進センター

〒090-0013 北海道北見市柏陽町603番地2

TEL : 0157-26-4161

FAX : 0157-26-4171

E-mail : chiiki@desk.kitami-it.ac.jp

URL : <http://www.crc.kitami-it.ac.jp/>



国立大学法人 北見工業大学 学術推進機構 社会連携推進センター

〒090-0013 北海道北見市柏陽町 603-2 TEL : 0157-26-4161 FAX : 0157-26-4171 E-mail : chiiki@desk.kitami-it.ac.jp